

# 鳥取県中部地域におけるオヤニラミの生態調査 Reveal “Oyanirami” distribution in central Tottori Prefecture

倉吉東高等学校 2年 阿部朋治 中口大智

**Abstract:** The distribution of "Oyanirami" in the center area of Tottori has been considered to be in "Tenjingawa" and "Kougawa". So they haven't tried to find and catch them in such regions as "Mitokugawa" and "Yurihama" which is why there isn't any record of them now. In order to clarify the exact distribution, collection surveys were conducted at 52 locations. As a result, the habitat was confirmed at 36 points, and it was found that the distribution was expanding. It was found that "Oyanirami" in central Tottori prefers to eat small fish. It can destroy the ecosystem and needs attention.

**Keywords:** domestically imported species, area of distribution

## 1. 研究背景

オヤニラミは環境省レッドリストで絶滅危惧種 I 類に登録されている体長 10 数 cm 程の動物食性淡水魚である。日本の分布域は保津川・由良川以西(共に京都)の本州、四国北部、九州北部、そして鳥取県においては日野川水系のみで生息が確認されている(鳥取県レッドデータブック 2012)。鳥取県中部地域においては 2012 年の鳥取県版レッドデータブック作成時には確認されていないが、2018 年の「河川水辺の国勢調査」(国土交通省)では鳥取県中部地域 3 地点 (①福光橋：国府川・天神川・小鴨川合流部、②天神川・米積橋、③国府川) で新たに生息が確認されている。これらのことから現在ではさらなる分布域を拡大していると考えられ、調査が必要である。永田ら

(2020) によると滋賀県野洲川に生息するオヤニラミは水性昆虫を主に捕食しているようであるが、鳥取県中部のオヤニラミの食性については調べられていない。



捕獲したオヤニラミ

## 2. 研究目的・意義

鳥取県版レッドデータブックにおいて絶滅危惧種 I B であるオヤニラミの鳥取県中部地域における現在の生息域状況を調査により明らかにすることを目的とする。また、今回の調査から鳥取県中部地域において急速で広範囲にわたる生息域の拡大が確認され、オヤニラミが人為的に持ち込まれた国内移入種である可能性が推測されることから、本種がこの地域の在来種に与える生態的な影響をオヤニラミの食性を調べることで考察する。実際に国内移入種として指定外来種に認定されている滋賀県において、野洲川に生息するオヤニラミの食性と比較する。

## 3. 研究方法

### (1) オヤニラミの分布域の調査

鳥取県中部地域の 52 地点でタモ網を使用し野外での採集調査を実施(天神川漁協の特別採捕許可書を取得)し、分布地域を調査する。その際、オヤニラミの好むアシなどの植物やオオカナダモなど(沈水植物)が生え、水流が緩やかである水辺を重点的に調査する。

### (2) オヤニラミの鳥取県中部地域の在来種に与える生態的な影響を予測するための調査

水槽での飼育観察を行う。その際に餌として人工飼料を与えず、生息域から捕獲した水生生物(魚類、エビ、昆虫)を与え、捕食の有無を観察する。

## 4. 結果・考察

### (1) オヤニラミの分布域

52の調査地点のうち36地点で、全長1～15cm(幼魚～成魚)のオヤニラミが計142匹捕獲することができた。生息が確認された36地点は2018年の「河川水辺の国勢調査」(国土交通省)で生息が確認された3地点を含めて鳥取県中部地域の広範囲にわたっている(新たに、小鴨川上流、三徳川、東郷川、羽合用水などで確認された)。

### (2) オヤニラミの鳥取県中部地域の在来種に与える生態的な影響

捕獲地で採取した水生生物(魚類、エビ、昆虫)をオヤニラミがいる水槽に入れるとほぼすべて捕食された。また、3～4cmのイトモロコヤカワムツの幼魚を50匹程入れた際にも、オヤニラミに10時間で全て捕食された。滋賀県野洲川のオヤニラミは水性昆虫を主に食べていたが鳥取県中部に生息するオヤニラミは、エビや水生昆虫(クロカワムシ)より魚類を好んで食べる傾向にあった。

本調査により、2012年～2018年までは鳥取県中部地域のごく一部にしか生息していなかったオヤニラミは、2018年から現在までの短い期間にこの地域において個体数を増やししながら生息域を急速に拡大していることが確認できた。また、生息域の拡大と旺盛な食性をもつことから、国内移入種の場合、在来種を大量に捕食し鳥取県中部地域の河川生態系を破壊しかねないと推測される。例えば、絶滅危惧種であるメダカ(全長3～5cm)にとっては大きな脅威となり、鳥取県中部地域のメダカの急速な減少を進行させる可能性が危惧される。オヤニラミは遡上タイプの魚ではないため、この地域におけるオヤニラミの急速かつ広範囲にわたる生息域の拡大は人為的に移入が行われた可能性が疑われる。また、オヤニラミはアクアリウムなどで非常に人気があるため、飼育しきれなくなり逃してしまった人がいた可能性がある。調査地点のうち小鴨川上流部や三徳川など河川の上流部で増殖した個体が下流に移動して分布を広げた可能性などが考えられるため、今後注意が必要である。

## 5. 結論及び今後の展望

絶滅危惧種であるオヤニラミが個体数を増やし生息域を広げることは一見良いことのように見えるが、旺盛な食性を持つ生物として移入先の生態系のバランスを崩す存在となりうる可能性があるため、今後も生態調査を継続する必要があると考える。また、本分布はここ10年以内に現れたと考えられることや、分布域の拡大状況からも国内移入種という考えが自然であるという天神川漁協関係者(中前雄一郎氏)の指摘のように、オヤニラミは国内移入種の可能性が考えられる。

今後、まだ調査を行っていない東伯町での分布調査を行うとともに、分布域の変化にも注目していきたい。

## 6. 参考文献・引用文献

- 1)鳥取県(2013).レッドデータブックとっとり改訂版.<https://www.pref.tottori.lg.jp/95805.htm>. 2020年1月21日.
- 2)山田裕貴他(2020).「徳島県で検出された国内外来由来のオヤニラミの個体群と遺伝子攪乱の懸念」.保全生態学研究,25,9-23.
- 3)国立環境研究所.侵入生物データベース.  
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50920.html>.2020年1月21日.
- 4)永田涼他(2020).滋賀県野洲川におけるオヤニラミ *Coreperca kawamebari* の食性.  
[http://biwako.eco.coocan.jp/exchange/2020/photo/nagata\(2020\).pdf](http://biwako.eco.coocan.jp/exchange/2020/photo/nagata(2020).pdf).2020年1月21日.
- 5)島根県(1998).瑞穂オヤニラミ生息地.  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/nature/shizen/shimane/minnademamoru/oyanirami.htm>  
1.2020年1月21日.
- 6)渡辺亮一他(2008).「裂田水路における水際および水路内植生が魚類の生息量に与える影響」.水工学論文集,52,1153-1158.